

第 63 期第 2 回「東日本大震災」被災支援委員会報告

小池 正造 (支援委員)

7月19日午後3時より、大宮教会において、第2回委員会が開催されました。

はじめに秋山委員長より、6月教団救援対策本部で宇都宮教会の援助申請が承認されたこと、7月18日に宇都宮上町教会を教区四役で訪問したことが報告されました。また、今後の支援委員会の課題として、①支援を受け、会堂再建の行われた教会からの報告を求めること、②支援を受けずに、会堂再建を済ませた教会へのお見舞金を支払うことを速やかに行うことが挙げられ、検討を進めることになりました。

金刺主事から会計報告がなされ、教区に献金を送ってくださる教会のあることへの感謝がのべられました。また、教団への募金と教区への献金を混同している教会があるかもしれません。ご注意ください。教団教育部の指定献金(200万円)を被災した教会関係乳幼児施設16園に送金をいたしました。

教団救援対策本部が行っている「会堂及び牧師館建築資金貸付契約書」並びに「幼稚園／保育園園舎建築／補修資金貸付要項」について、教区の立場をはじめとし、不明な点が数点あるため、次回救援対策本部会議で、秋山委員長が確認を取ることにいたしました。

教区教会負担金減免額について、昨年同様に被災各教会で均一の減免率で計算をすることになりました。教団から示された減免額447万円を、対象となる28教会の負担金額に合わせて減額いたします。

会堂再建完了報告について、既に完了している教会に対して、報告書を作成してもらうことになりました。書式や必要書類については、他教区、教団と足並みを揃えつつ、整えていきます。また、支援ニュース紙面での報告にもご協力ください。

被災地・被災教会で祈りをあわせる旅第2弾について、10月28日から30日の日程で、開催することが決まりました。第1弾は新潟発でしたが、第2弾は大宮発となります。バスでの長距離移動を考慮し大型バスを利用することになりました。なお、参加費で賄いきれない費用は、教区支援委員会が負担することになりました。

次回委員会は、9月10日常置委員会後となります。

被災地・被災教会で祈りをあわせる旅 第2弾 決行！！

お待たせいたしました。埼玉発の第2弾の開催が決定しました。

日程 2013年10月28日(月)～30日(水) 参加費 30,000円(予定)

旅程(予定) 大宮教会発／会津放射能センター／石巻エマオ／仙台荒浜／アジア学院

申込先・問合せ 関東教区事務所

日本基督教団東日本大震災救援募金

*現在の募金状況(2013.7.22現在)

¥580,616,493 「東日本大震災救援募金」

¥251,358,519

「東日本大震災海外献金プロジェクト」

ボランティア募集

8月は直接仙台エマオにお問い合わせください

仙台エマオ 022-265-0173

問合せ 小林祥人(090-3529-5140)

食事ボランティアを大募集します。1チーム3名以上でお願いします。

(8月8-9、15-17日、日曜日を除く)

最善を尽くす

飯野 久美子 (エマオ石巻 専従者)

日頃より東北教区被災者支援センターエマオをお祈りにお覚え下さり有難うございます。関東教区の皆様には 2011 年の 4 月以来東北の支援に携わっていただき、先日の総会でも今後も引き続き現地に於いて支援に携われる方々を派遣して下さるとの事、感謝申し上げます。

2011 年の 3 月 11 日以後エマオ仙台での支援と共に石巻栄光教会内を事務所にお借りしていた石巻は 2011 年 9 月に日本基督教団が民家を買取り、新たなスタートとして「エマオ石巻」の拠点を構えました。現在は 5 人のスタッフで活動を始め、一般募集、教会教区募集のワーカーさんの受け入れ、支援を必要とされている依頼者の方々との交わりを続けています。

被災当時は教会員の方々をはじめ、当初のスタッフが被害の大きかった地域に自ら出向いて声掛けをし、お家の床下や敷地内の泥かき等の力作業を行いました。3 年目に入った現在は、支援の内容は次第に変化しています。○仮設住宅支援○在宅訪問○長期休暇を利用しての子ども支援○教会幼稚園の行事の手伝い○漁業支援等々を行っています。

仮設住宅支援では今年の 1 月から関わりのある 4 つの仮設住宅でのお茶会の支援を月 1 回から 2 回に増やし、狭い空間での生活を余儀なくされている住民の方々の息抜き、住民同士の顔合わせの場、楽しみの 1 つとして、手芸品作りなどの時間の提供をしています。エマオのブログで手芸材料の献品を呼びかけたところ、全国各地の教会の婦人会の方々が主にご協力下さり驚くほどの材料が集まりました。遠く離れていても、たくさんの皆様に支えられている事に励ましを覚えました。感謝致します。

先日はその手芸品の献品を持ち運び、仮設住宅の方々を中心にお声掛けをし、ミニバザーを行いました。津波で家も物も流された方々はたくさんの手芸材料を前にとても嬉しそうに、時間をかけて色々な材料を見ながら「選ぶ楽しみ」を満喫されていました。

漁業支援として 3 月にはワカメの生産地で有名な十三浜（じゅうさんばま）でワカメの出荷作業のお手伝い、初夏～7 月初旬にかけては、牡蠣の養殖で知られる荻浜（おぎのはま）にて種付けのお手伝いを行いました。震災後、漁業再開に向け人手を必要とされていると知り私達も支援をお手伝いする事となり、去年に引き続き現在もお付き合いを続けています。

2012 年の夏休みから始めた**子ども支援 {いしのまきっこ}**は今回で 5 回目を迎えました。エマオ石巻は 2 階建ての 1 軒家で、普段は男性ワーカーさんの宿泊スペースとなる和室（6 畳 2 間）を解放し宿題、工作、遊びと楽しい思い出作りとなるような内容を考え行っています。近隣の公園も震災以降手入れが行き届いておらず、遊び場が少なくなった子供達のために…とはじめました。子供達も「明日もまた来たい」、また、保護者の方からも「次の休みも子ども達、預かってもらえますよね？」と言った念押しもあり、私たちの活動もお役に立っているのかな…。と実感することができました。

震災当時、お手伝いさせていただいた、在宅のひとり暮らしの年輩者の方のお宅へは安否確認も兼ねて**訪問**を行っています。家族とお住まいになられていても、震災を思い出すと辛くなり被災して使えなくなった物でもなかなか処分できずいたり、被災した家の解体作業の騒音や地響きに体の不調を訴える方。車が無く食料の買い出しのスーパーへ 1 時間かけて歩き、買い物し終えた荷物を持ちその道のりを引き返す事に、精神的にも体力的にも疲れを覚えている方…。

日中、人と話す事も少なく訪ねて行くと人恋しそうにお話が尽きない方…。

その中で私達がどの様なお手伝いができるか…？課題が多く尽きなくある中で、何が最善かを見分ける力をつけ、神の御心になつた支援活動が続けていかれる事を願います。今後共ひき続き被災地をお覚え下さいますようお願いいたします。

